

再生委員会からのお願い

代表
白矢 勝一
委員
安井 廣迪
津谷喜一郎

長寿万歳！でも…… 次々世代へバトンを繋ごう

得ないという結論に達しました。

このような急激な変化に戸惑われている方も多くいらっしゃるに違いないと思われれます。スムーズな移行を心がけていますが、変化時には「迷惑をお掛けすることも多々あると思います。今後もし引き続きクラブ持続運営のため、何卒お許し頂き、変わらぬご支援をお願いします。

ところで、現在の会員258人(二〇〇九年六月二十二日)の人口ピラミッドを作成しました。80代が最も多い、ついで70代、60代、90代と続きます。90代は16人いらっしゃいます。長寿万歳！当会の長い伝統を示し、いかに多くの人々がこの会を支えてきたかを示すものだと思います。

これまでクラブの年会費は、昭和62年前後に1万2000円から1万5000円へ、また平成六年前後に1万8000円へと値上げされてきました。それにもかかわらずクラブの会員を継続していただ

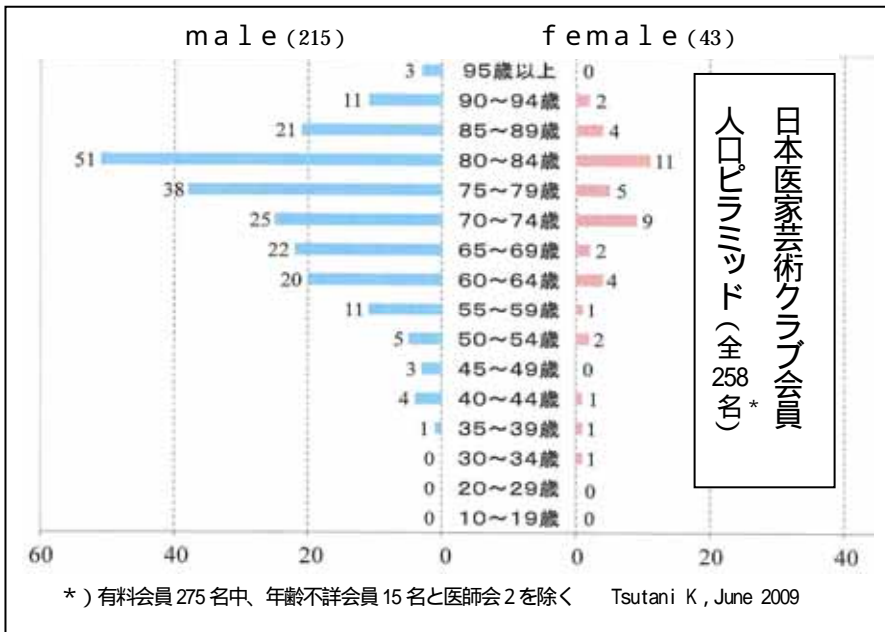
下げし、会員の増加策を講じました。本年二月八日の臨時総会で、これらの活動が評価され、さらに再生委員会がクラブの運営を継続することが決定されました。

本年四月からの体制としまして、平成二十年度(三月末日)をもって退職を希望されていた大出事務局長に、無理に「医家芸術」誌の編集作業と本年の邦楽祭「ファミリーコンサート」のご担当をお願いし、承諾して頂きました。

書道部は独自に、美術展と写真展は事務長代理の西田明子さんに担当して頂く。各部のイベント開催には大出氏のご協力とご支援が不可欠であるが財政状況を鑑み、各部のイベント経費からイベント運営事務費は捻出する方法を選択せざるを

昨年(二〇〇八年六月十九日)の総会で、医家芸術クラブの存続が議論されました。その折、有志により「再生委員会」が結成され、当クラブの運営の主体となることとなりました。その後、各部の会計とクラブ全体の会計の分離、会費納入期限の統一化、機関誌においてはカラー化、印刷会社の変更、入力の有料化、執筆時の機関誌購入依頼等、経営の合理化を図ってまいりました。

また、一方で年会費(正会員)を従来の1万8000円から、8000円へ値



日本医家芸術クラブ会員
人口ピラミッド (全 258 名*)

いた方々が大部分でありました。改めてお礼を申し上げます。

一方で、この年齢分布を見て、新入会員の増加が望まれることがわかります。まずご子息、甥姪などの一世代下の方に声をかけていただければと思います。一世代、三世代下の方も大歓迎です。また、大学の後輩の美術クラブ、音楽クラブなどにも声を掛けて下さると助かります。

事実、私共は以前は宗教団体みたいに思われてもいやなので、あまりクラブへの勧誘をしなかったのですが、このところ声をかけてみると入会

してくださる方が何人かいます、勧誘してみてもいいのではと思っています。

再生委員会は、二〇〇八年六月二十九日にクラブの新しいホームページを立ち上げました。幸いなことに好評です。

医学上歴史的に重要な文章も多々この機関誌に載せられており、これらをホームページに時間をかけてのせていこうとしています。またこのホームページからは容易に入会できるようになっています。

またこのクラブは全国組織ですが、個々自分たちができる範囲で活動できれどと考えています。それらをインターネットを使ってネットワーク化するのも、クラブの役割かもしれません。

たとえばのお話ですが、私(白矢)で言えば、小平での小美術展やミニコンサートなど自分たちの範囲内で行う活動を行う。そして実力が伴つようになれば全体展に参加するというふうにさせていただきます。